

令和4年度 文学部 学校推薦型選抜
日本・中国文学科 小論文② 出題意図・解答例

●大問1

【出題意図】

『方丈記』から都市生活の危険を述べた部分を的確に読み取り、論点を簡潔に整理できているか。

作者が自分の過去を振りかえって述べた部分と、前半を有機的に関連して把握できているか。

答案全体が正しい明晰な日本語で論理的に記述できているか。

【解答例】

人家の稠密した都を襲った五大災厄の悲惨な状況を踏まえつつ、長明の説く都市生活の問題点としては、人間関係を中心に以下のようなものがある。

- ①権力者の近隣に住む社会的弱者の不安と気苦労
- ②金持ちの隣に住む貧乏人の惨めさと妬み
- ③濃密すぎる人間関係や周囲の眼を気にすることからくる窮屈さ
また、物理的には次の二点が指摘されている。
- ④場末に住む際の治安の悪さ・不便さといった劣悪な住環境
- ⑤家屋の密集した都市における火災に際しての延焼・類焼の危険

これらは人間の集団生活、つまり都市の住環境から生まれる苦悩と定義することができ、五大災厄によってそれらが極端な形で都の住民に突きつけられたのである。

さらに、長明個人の不遇な人生があり、それをもたらしたのは父の早世や親類との不和など、彼をとりまく親族間のトラブルであった。長明の不運は相続した豪邸を手放し、十分の一ほどの簡素な住居に転居し、ついには洛外の草庵という住居の変遷によって象徴された。都の立派な住まいから大原の草庵への変化を自身が受け入れるために、都市の住居の危険と困難は彼にとって一種の啓示であったとも考えられる。退嬰的かもしれないが、長明は、都の住まいがもたらす苦痛から逃れるために、自らの主体的選択として郊外の孤独な閑居を選んだのであろう。そして、それは隠者と呼ばれる人々の伝統的な思考法であったと思われる。

(581字)

令和4年度 文学部 学校推薦型選抜
日本・中国文学科 小論文② 解答例

●大問2

【解答例】

不正を摘発し、法を執行する役人であった杜周という人物は、辺境における兵士の逃亡や物資の損失などの事案を審議するに際し、多くの人を殺害するなど非情な裁きを行った。遅鈍に見えて内面は酷薄で、その治政は、酷吏として知られる義縦、張湯、減宣に倣うものであった。人民に対してはかくも無慈悲でありながら、天子に対してはつねに機嫌をうかがい、法律に背いてでも、天子の意向にそうように裁きを行った。ある者がその非を責めると、歴代の君主が是とするものを成文化したものが律令である以上、その時々によって是とするものは異なってくるのであって、古代の法を持ち出す意味などないと、言葉巧みに反論し、非道な裁きを続けた。

法は遵守されるべきものである。しかし、違反する者が増えれば、いよいよ厳しい締め付けを行うためだけに適用される側面も持ち合わせている。加えて、杜周のように権力者の意に沿うためだけに刑罰を論じるという卑劣な行いをしたり、法を無視したりする役人が現れれば、もはや法の公平性は失われてしまい、人民は不当な統制・弾圧に屈するだけとなってしまう。筆者は苛烈な裁決を行った役人を記録することを通じて、法は公正かつ安寧な社会を築くための手段であり、為政者のためのものではないことを説く。法の恣意的な解釈変更は行われるべきではないし、人民を統制するためだけに厳格に法を適用することはあってはならない。

(587字)